



札幌医科大学 保健医療学部
理学療法学第二講座

第6回 内部障害リハビリテーションフォーラム 開催のご案内



はじめに

2009年に、本学学長であります島本和明先生のご指導をいただきながらスタートいたしました循環器リハビリテーションフォーラムも、2013年より「内部障害リハビリテーションフォーラム」との名称変更を経て、今回で6回目の開催となります。

内部障害リハビリテーションに関するトピックスも、昨今は多くのマスコミでもとりあげられるようになってきました。心臓リハビリテーションのみならず、がんや糖尿病、そして透析患者さんに対する運動療法を中心としたリハビリテーションアプローチに関する研究成果には高い関心がよせられています。これら社会の認知にあわせて、さらなる知見の集約と研究の推進、そして具体的実践を進めることで、多くの内部障害をもつ人々への健康維持回復といった大きな社会貢献ができる重要な分野となってきたものと考えています。

第6回目となる今年度のプログラムは、内部障害リハビリテーションの礎としての知見となる心大血管疾患に対するリハビリテーションに改めてターゲットをあて、これまでの変遷と最新の知見から、今後の心大血管リハビリテーションのあり方について考えることをテーマといたしました。プログラム構成は、昨年度同様に特別講演とワークショップ、教育セミナーの3部構成と致しました。特別講演には我が国の心臓リハビリテーション領域で活躍する理学療法士のトップリーダーの一人である高橋哲也先生に「心大血管疾患の身体機能に与える影響とそのメカニズム」としてお願いしております。多くの先生が待ち望むこの特別講演を企画できたことを関係者一同大変嬉しく思っております。ワークショップ企画は、このフォーラムに参加される幅広い専門職の方々のご要望に配慮し、「行動変容と運動指導～医療関係者も知っておきたい健康運動の実際～」および「医療現場における理学療法の実践～健康運動分野の人も知っておきたい医療の現場～」の2つを同時進行で実施する企画をさせていただきました。内部障害リハビリテーションに関わる様々な専門職の連携を生み出す機会として、そして参加される皆様の学びの関心に少しでも貢献できることを期待した企画と致しました。また、毎回好評となっております教育演習セミナーは、「運動が生体の呼吸循環代謝に与える影響とそのメカニズム」として、これまで通り沖田孝一先生にお願いをしております。今年も、内部障害リハビリテーションに必要な基礎知識を再確認できる絶好の機会となるものと考えております。

本年も多くの皆様のご参加により、内部障害リハビリテーションがもつ可能性について学び、追求していきたく思っております。今後ホームページ等で随時フォーラム情報を掲載してまいります。皆様多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。また、実行委員一同、実り多いフォーラムとするための尽力を続けてまいりたいと思っております。

内部障害リハビリテーションフォーラム実行委員会

実行委員長 片寄正樹

(札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座)



平成26年度フォーラムの開催趣旨

本フォーラムは、循環器および呼吸器、代謝を総じて重複する重度な内部障害領域に精通する医療スタッフの人材育成を考えるとともに、北海道における内部障害リハビリテーションの発展および普及に寄与するべく、最新の研究と臨床検討の場を提供することを目的とする。

平成26年度フォーラムの企画テーマ

今年度のフォーラムでは、心大血管疾患に対するリハビリテーションのこれまでの変遷と最新の知見から、今後の心大血管リハビリテーションのあり方について考えることをテーマとし、特別講演、ワークショップ、教育研究セミナーの3部構成で開催を企画する。特別講演では、心大血管疾患における病態が身体機能、特に筋骨格系に与える影響について、そのメカニズムに焦点を当てて、病態に即した評価と治療を考える。ワークショップでは、健康運動分野と医療分野の2つの専門性に分かれて、各々の分野におけるより具体的な評価方法、治療手技について考える。また、教育研究セミナーでは、運動が生体の循環呼吸代謝のメカニズムに与える影響について、講義形式によるレクチャーを行う。

内部障害リハビリテーションフォーラム

テーマ「心大血管リハビリテーションの現在から未来へ」

開催期間

平成26年11月2日（日曜日）14：00～17：30（受付開始13：00～）

開催会場

北翔大学北方圏学術情報センター PORTO



札幌医科大学 保健医療学部
理学療法学第二講座

プログラム

総合司会

岩本えりか（札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座）

開会の挨拶

根木 亨（札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座）

● 特別講演

14:05～15:05

特別講演1

「心大血管疾患の身体機能に与える影響とそのメカニズム」

講 師：高橋哲也（東京工科大学医療保健学部理学療法学科 教授）

座 長：片寄正樹（札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座 教授）

15:20～16:20

ワークショップA

「行動変容と運動指導-医療関係者も知っておきたい健康運動の実際-」

講 師：上田知行（北翔大学生涯スポーツ学部 准教授）

講 師：本多理紗（北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター 研究員）

ワークショップB

「医療現場における理学療法の実践-健康運動分野の人も知っておきたい医療の現場-」

講 師：近藤和夫（北光記念病院心臓リハビリテーション室 課長）



札幌医科大学 保健医療学部
理学療法学第二講座

- 教育演習セミナー

16:35～17:25

内部障害に対する運動療法を行う上で必要な医学的知識、特に運動生理に焦点をあてて、運動が生体の循環呼吸代謝のメカニズムに与える影響について、最新の研究結果に基づく知見から講義形式によるレクチャーを行う。

講師：沖田孝一（北翔大学生涯スポーツ学部 教授）

座長：齋藤重幸（札幌医科大学保健医療学部基礎臨床医学講座 教授）

閉会の挨拶

片寄正樹（札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座）



札幌医科大学 保健医療学部
理学療法学第二講座

参加対象

北海道在住の医師、看護師、理学療法士、作業療法士、健康運動指導士、医療従事者および学生

主催

札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座
札幌医科大学医学部循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座
札幌医科大学医学部心臓血管外科学講座
札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座

共催

北翔大学生涯スポーツ学部

後援

公益社団法人 北海道理学療法士会（申請予定）
公益財団法人 健康・体力づくり事業財団（申請予定）

協賛

札幌医科大学学術振興事業 公開講座等開催事業



札幌医科大学 保健医療学部
理学療法学第二講座

実行委員会

実行委員長 片寄正樹

(札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座 教授)

実行委員 札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座

松村博文、渡邊耕太、金子文成、谷口圭吾、根木 亨、青木信裕、
岩本えりか、佐々木美和

札幌医科大学オホーツク医療環境研究講座

片野峻敏

札幌医科大学大学院保健医療学研究科

大岩正太郎

札幌医科大学付属病院リハビリテーション部

塚田貴紀

札幌医科大学医学部循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座

橋本暁佳

北翔大学生涯スポーツ学部

沖田孝一、小田史郎、上田知行、吉田 真、小坂井留美、吉田昌弘

NTT東日本札幌病院

澤口雄治 (札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座 訪問研究員)

帯広協会病院

角谷尚哉 (札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座 訪問研究員)



札幌医科大学 保健医療学部
理学療法第二講座

これまでの循環器・内部障害リハビリテーションフォーラム 開催の歩み

- 循環器リハビリテーションフォーラム2009
日時：2009年12月3日
会場：札幌医科大学 記念ホール
開催テーマ：「慢性心不全における心臓リハビリテーション医学の最前線」
参加者総数：139名
- 循環器リハビリテーションフォーラム2010
日時：2010年11月13日
会場：札幌医科大学 記念ホール
開催テーマ：「北海道における心臓リハビリテーション医療の普及と発展」
参加者総数：83名
- 循環器リハビリテーションフォーラム2011
日時：2011年11月26日
会場：北翔大学 北方圏学術情報センター PORTO (ポルト)
開催テーマ：「心臓リハビリテーションにおける血圧マネジメント」
参加者総数：152名
- 内部障害リハビリテーションフォーラム2013
日時：2013年3月23日
会場：札幌医科大学 臨床教育研究棟 講堂
開催テーマ：「呼吸循環代謝の相互関係から病態を捉える」
参加者総数：139名
- 第5回 内部障害リハビリテーションフォーラム
日時：2013年11月9日
会場：TKP ガーデンシティ札幌きょうさいサロン 8階 芙蓉
開催テーマ：「内部障害リハビリテーションを病期で捉える」
参加者総数：131名



札幌医科大学 保健医療学部
理学療法学第二講座

問い合わせ先

札幌医科大学保健医療学部理学療法学第二講座

内部障害リハビリテーションフォーラム実行委員会 事務局

担当 根木 亨

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

TEL(011)611-2111 (合同研究室 2972)

FAX(011)611-2150

E-mail: sapmed.rehaforum@gmail.com

URL: http://web.sapmed.ac.jp/pt2/6th_naibu_forum/index.html